

学級活動指導案

指導者 小野 女史

- 1 日時 平成16年10月25日（月曜日） 第5校時
- 2 生徒・場所 3年男子13名 女子 6名 計19名
3年教室
- 3 題材名 EGG S A V E R～たまご救助隊

4 ねらい

人の心に見立てたたまごを仲間と協力して守るという活動を通して、心（感情や気持ち）の扱い方について考え、よりよい他人への接し方を見いだし実践していこうとする態度を育てる。

5 準備する物

生たまご（各班1個）、ストロー（各班20本）、セロハンテープ、はさみ
新聞紙、ビニール、ホワイトボード、ペン

6 主題設定の理由

本校は全校生徒48名の小規模校である。豊かな自然の中で、地域に見守られ、大切に育てられてきた生徒たちが、生徒会活動を中心とした様々な体験活動を通して、お互いに協力し合いながら、充実した学校生活を送っている。一方、生徒同志の人間関係は、少人数のために小学校の時から固定化されたものになってしまいがちである。家族のように遠慮のない、ある意味慣れ合いの人間関係の中で、何気なく発せられる言葉や行動が知らず知らずのうちに相手の気持ちに踏み込んでしまい、結果的にその人を傷つけてしまう場面が時として見受けられる。

本題材として取り上げた「EGG S A V E R」は、AFPYの考え方をベースにした活動である。グループで何かを作り上げる体験を通じてお互いの意見に耳を傾け、よりよい人間関係を構築する技術や態度の学習を図ろうとするものである。また、体験後の「ふりかえり」を大切にしていることも特色の一つであり、楽しみながらもカウンセリング的要素を含んでいるため、自己や他者への気づきが深まることも期待できる。学習活動の内容は、自分や他人の心（感情や気持ち）を大切に受け止めるための方策を仲間と考え作り出していくものである。たまごを人の心に見立ててそれを守るためにどうすればよいかをグループで力を合わせて話し合うことが、本当の思いやりとは何かを考えさせることにつながる活動である。

指導に当たっては、「たまご」を“自分たちの心（感情や気持ち）”、「ストロー」を“対立の中で自分たちの心を大切に受け止めるもの、守るもの”というメタファー（比喩）として使っていきたい。そして、物を作るという活動を通して、仲間とコミュニケーションを交わし合いながら、協力・協同し、そして問題解決へと向かわせたい。その過程の中で、心というもののもろさ、繊細さを再認識しながら、よりよい他人への接し方を見いだし、実践していこうとする気持ちを引き出したい。

7 学習課程

学習内容・活動	教師の支援及び留意点
<p>1 今日の活動に向けて、アイスブレイキングを行いながら、グループ編成をする。 ・ヘリウムフラフープ</p> <p>2 たまご保護器と説明の製作をする。</p> <p>○たまごを「自分の心に代わるもの」「自分が大切にしたい感情」に置き換える。 (たまごに「自分の思い・心に代わるもの、自分が大切にしたい感情」をマジックで書く。)</p> <p>○ストローにどのような役割を持たせてどんな工夫を加えれば、たまごを守ることができるだろうか？</p> <p>○グループで協力し、一人一人の役割を自覚しながら活動する。</p> <p>3 各班ごとに製作器具の説明をして、高さ1.5メートルの場所からたまごを落下させる。</p> <p>4 活動についてのふりかえり</p> <p>○自分や他人の心（感情や気持ち）を大切に受け止めるために、必要なことは何だろうか？</p>	<p>○和やかな雰囲気を作り、自分の気持ち、お互いの気持ちを考え、伝えるきっかけを作るように配慮する。</p> <p>○4人グループ×5班（1班のみ3人）</p> <p>○どこまで「たまごりこ「自分の気持ち」を置き換えられるか、たまごに対する思いを生徒たちそれぞれの心の中で高めさせたい。</p> <p>○たまごやストローの持つ意味をしっかりと考えさせながら、製作させたい。</p> <p>○グループのたまご保護器への思いを、発表の中に盛り込めるように助言する。</p> <p>○グループの中で、お互いの立場を尊重し、思いやりのある行動がとれているだろうか。</p> <p>○心（感情や気持ち）の扱い方や、それを守る方法がいろいろあることに着目させたい。</p> <p>○活動の中で考えたこと、思ったことをしっかりと意見交換させたい。：グループ</p> <p>○自分や他人の心を大切に受け止めるために、自分ができることを考えさせる。 ：個人</p>

8 評価

・一連の活動の中で心（感情や気持ち）の扱い方について考え、よりよい他人への接し方を見だし実践していこうとする意識が高まったか。

・お互いの立場を尊重し、思いやりのある行動がとれたか。

“EGG SAVER～たまご救助隊”を振り返って

氏名 []

タマゴ保護器製作の過程で

1	仲間と協力できた					協力できなかった		
5		4		3		2		1
<hr/>								

2	自分の考えを充分 主張できた					全然主張できなかった		
5		4		3		2		1
<hr/>								

この “EGG SAVER～たまご救助隊” で

3 私が驚いたことは.....

4 私がうれしかったことは.....

5 自分や他人の心（感情や気持ち）を大切に受け止めるために、あなたができることは何でしょうか？

10 生徒の感想から

【自分や他人の心（気持ちや感情）を大切に受け止めるために、あなたができることは何でしょうか？】

★僕たちは10年くらい一緒にいて、相手がショックを受けることに気づいていないかもしれない。今後は気をつけて話すようにする。

★自分が人の気持ちになってみる。自分が嫌なことは相手にとっても嫌なこと。だから何事にも人の気持ちを考えて行動していきたい。

★一人一人の意見や考えを尊重し、人の心を傷つけてしまわないように気をつける。

★自分の心を素直にすることだと思う。いつも友達を大切にしようとする気持ちが必要だと思う。

★自分のことばかりでなく、他人の気持ちも理解し、どうしたら受け止められるか、どうしたら守ることができるかということを考え、日常生活の中でそれを見つけること。

★真剣に考えてあげる。自分や他人の心を。



★できるだけ親身になって人の話を聞く。

★言葉の使い方や行動に気をつけないといけないこと。

★助け合う気持ち、協力し合う気持ち、いつも優しい気持ちで人と接すること。

★何よりも寛大な心を持つこと。自分の心は自分でどうにかなるけど、他人の心は、その人以上の心の広さを有して接しなければ大切には受け止められないから。

3 今後の課題

「伝えたいことがどこまで生徒たちの心に響いたか」、ふりかえりの感想や授業後の会話を通して、大半の生徒は根底のところでは理解できたのではないかと感じている。が、もう一歩踏み込んで、その思いを今後の学校生活の中でどのように生かしていくのか、自分の気持ちをどのように表現していくのか、そこまでつなげていく授業の展開が今ひとつ足らなかったように反省している。実験の結果すべての班が”割れる”が”ひびが入る”という状態になった。そこからある生徒が「どんなにストローで守ってもたまご、心は傷ついてしまう」という言葉を書いていた。ではどうしたら守れるのだろうか。手をさしのべる（周囲の支え）、クッションで受け止める（受容）、ゆで卵にする（自分自身の心を強く）。いろいろな状況をいろいろな角度から考えさせ、プラス思考の展望に持っていく方法が必要であったかもしれない。

生徒たちが苦心して考え名付けた「たまご保護器」を、これからも日常の会話の中で使いながら、この授業で感じ考えたことを思い起こさせてやることができたらと思っている。